

(様式2)

「桐生市過疎地域持続的発展計画案」に対する意見提出手続の結果

- 1 意見の募集期間 令和3年7月1日(木)～令和3年7月30日(金)
2 意見の提出者数 3人(直接2人、電子メール1人)
3 意見の件数 3件
4 担当部課 共創企画部 企画課
電話 (0277) 46-1111(内線524)
ファクシミリ (0277) 43-1001
電子メール kikaku@city.kiryu.lg.jp

5 提出された意見の要旨と考慮の結果

(1) 計画全体についての意見

番号	意見の要旨	考慮の結果(意見に対する市の考え方)
1	<p>原案の内容とするとこれまで通り、その大方針は「市民からの要望に応じて、地域の現状を維持するよう努力する」ということになるようです。このまま、全国一律の価値観で進んで行ったのでは、きりゅう地域も日本総収縮のスパイラルから抜け出せそうにありません。</p> <p>地域の存続を図るには、そこに住む「市民の価値観転換」が必須になると考えます。市民の価値観が変わり、生活行動を変えることで地域を作り直さないと持続可能な地域にはならないと考えています。持続可能な地域づくりのために、この計画の中身を「ゆっくりズムのまちづくり」の切り口から環境・経済・社会の各面について再検討して、共創の時代に官民連携して取り組んでゆくことにより快疎地域の実現を図る、つまりこの計画の中身が、市民生活の価値観を変えるきっかけになるようなものになればと考えています。</p>	<p>原案の内容が全国一律の価値観に基づいているという御指摘につきましては、本計画は、人口減少対策に主眼を置いて取り組んでいる第六次総合計画の内容を主体として策定しておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>「市民の価値観転換」につきましては、施策の実行性や得られる効果を勘案しつつ、市民の皆様にとどのような施策を提唱していくべきかを本計画の策定後も検討していきたいと考えております。その中で、「ゆっくりズムのまちづくり」につきましてもSDGs(持続可能な開発目標)の考え方等を踏まえつつ、その具体化に向け研究を進めていきたいと考えております。</p>

新しい価値観に基づく生活行動の転換の例として、私たちが毎日使っている自動車について考えてみましょう。今、SDGsや脱炭素の観点から、早急に電気自動車に切り替えるべきとの話が出ていますが、現在の価値観のまま電気自動車に乗り換えるというのは、ますます大量のエネルギーが必要となり、そのためのエネルギー代という費用負担のために地域から価値が流出する世界の継続を自ら選択することになるのです。そうならないためには、自動車の使い方を変える必要があります。

例えば、日常の移動は、小型で二人乗り程度の短距離利用を前提とした自動車（これは、桐生市内でも作れます）や電動2輪車、電動アシスト自転車に乗り換えます。徒歩や自転車もさらに好ましい手段として選択できます。これらの移動手段で最寄りの駅へ行き、地域間交通を担う速達性の高い軌道系公共交通で目的地へ出向くことで、大幅なエネルギー節約ができ、かつ軌道系交通機関の維持もできます。本計画でも、わたらせ渓谷鐵道や上毛電鉄、バス等への補助の継続により、交通弱者の足を守ることが述べられていますが、これまで通りの交通弱者のみを対象に考えて補助金を投入していたのでは、沿線人口のさらなる減少により、利用者はさらに減って近い将来補助をしきれず廃止されることになるでしょう。

以上は一例です。商店街振興や住宅の新たな形、ものづくり企業の立地の

	<p>在り方など、「ゆっくりズム」に沿った新しい形があると考えます。持続可能なコミュニティを作るための旗印として、「ゆっくりズム」を掲げて、これに基づく活動の導入により過疎から快疎への転換を現実のものとする取り組みの提唱となる計画とすることを是非お願いいたします。</p>	
--	--	--

(2) 「産業の振興」における観光振興策についての意見

番号	意見の要旨	考慮の結果（意見に対する市の考え方）
1	<p>桐生市においては、前橋市が中心に進めている赤城山を重要な観光資源として位置づけた各種イベントにも参画しており、「桐生市過疎地域持続的発展計画（案）」においても「観光の振興策」として春・夏・秋とシーズンを通して赤城山の自然を楽しむことができる観光スポットである花見が原森林公園及び利平茶屋森林公園の施設改修等を行うと述べられています。</p> <p>昭和30年代には黒保根村から赤城山に登るルートが主流で赤城登山鉄道が引かれるなど開発が行われましたが40年代に入ると前橋側から登るルートが主流となってしまう、利平茶屋森林公園及び赤城山への登山ルートの認知度は低い状況です。</p> <p>しかしながら、黒保根町から赤城山に登るコースには「アカヤシオ」や「シロヤシオ」、「シャクナゲ」、「ドウダンツツジ」「ヤマツツジ」の古木が多く、美しい花を咲かせています。最近はSNSの普及で多くの方が「登山アプリ」により花の開花状況などの情報を</p>	<p>利平茶屋から鳥居峠への登山道は、国有林野を管理している群馬県森林管理署より本市が敷地を借り受けているものです。今後の登山道整備につきましては、貴会等の支援団体の協力を得ながら、利平茶屋森林公園整備事業の中で公園施設と一体的に整備を実施していきたいと考えております。</p> <p>なお、花見ヶ原から黒檜山への登山道は、環境省が整備した首都圏自然歩道「関東ふれあいの道」であり、今後の整備につきましては、首都圏自然歩道の維持・管理を行っている群馬県と連携を図りながら、登山道として必要な倒木処理や下草狩りなどを中心に実施していきたいと考えております。</p>

	<p>得て利平茶屋から赤城山に登る方や、鳥居峠から利平茶屋まで下りながら花を楽しむ方が驚くほど増加しています。</p> <p>このような状況下、桐生市が指定している利平茶屋から鳥居峠への登山道は整備が遅れ「道標」は劣化して文字が読めない状況であり、2カ所に掛かる橋の木材も腐りかけて穴が空いている箇所があるなど危険な状況です。また、崩れかけた登山道の補修もなかなか実施されていない状況です。桐生市としては予算確保が難しく補修事業に着手できない状況であるということで、私どもの会では、年々増加する登山者の安全を確保すべく黒保根支所の関係部署とも情報交換を行いつつボランティアを募って可能な範囲で登山道整備やアカヤシオの鹿害に対する対策(リンロンテープ巻き)などを行っております。しかしながら、補修材料や鹿の食害防止テープ(一卷き2000円程度)など高額なものもありメンバーの個人負担にも限りがあります。</p> <p>以上の状況をご理解いただき、森林公園の整備に加え利平茶屋から鳥居峠への登山道及び花見が原から黒檜山への登山道整備も今回の計画に盛り込んで頂くことをご提案いたします。</p>	
--	--	--

(3) 「子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進」についての意見

番号	意見の要旨	考慮の結果(意見に対する市の考え方)
1	高齢者福祉の向上を図る中で、「桐生市黒保根高齢者生活支援施設」の管	現在、市内13か所に設置されている特別養護老人ホーム(総定員数930人)など、介

<p>理についての記述はありますが、特別養護老人ホーム「しみずの里」の記述がありません。当該施設は、地域の安定した介護サービスを提供する上で必要不可欠な施設であります。</p> <p>今後、適正規模に必要な施設の改善や老朽化による改修等を実施するため市の支援が受けられるよう計画に盛り込んでいただきたく要望いたします。</p>	<p>介護保険関連の施設につきましては、桐生市高齢者保健福祉（介護保険事業）計画及び群馬県介護保険事業支援計画（以下「介護保険事業計画」という。）に整備計画を定め、3年周期で計画的に整備を推進しています。</p> <p>第8期介護保険事業計画（令和3年度～令和5年度）では、新たに特別養護老人ホームを整備する計画はありませんが、今後、第9期介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）の策定に向け、地域のニーズに応じた適切な整備計画を検討していくこととなります。</p> <p>いずれにいたしましても、介護施設等の整備につきましては、市内全域において、地域に必要な介護基盤を確保し、維持するという観点から、国県の補助制度等を活用しながら、適切に推進していく必要があります。</p> <p>このことについては、計画案の7－（2）－イ－⑤（p41）「一人ひとりの高齢者がそれぞれの暮らす地域で自立した生活を営む上での課題やニーズに的確に対応できる支援基盤や居住環境の創出を目指して、在宅高齢者環境整備事業や家族介護支援事業など、効果的な支援を提供します」という施策の中で、対応を図っていきたいと考えています。</p>
---	---